



転倒災害を防止しましょう。

H29年は、転倒（※1）により死亡事故！

転倒災害の主な原因

▶転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？

 <p>滑り</p> <p><主な原因></p>	 <p>つまずき</p> <p><主な原因></p>	 <p>踏み外し</p> <p><主な原因></p>
<ul style="list-style-type: none"> 床が滑りやすい素材である。 床に水や油が飛散している。 ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 	<ul style="list-style-type: none"> 床の凹凸や段差がある。 床に荷物や商品などが放置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。

転倒災害防止対策のポイント

▶転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4S(整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ(水、油、粉など)を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 職場の危険マップの作成による危険情報の共有 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起

転倒災害防止対策を効果的に進めるために・・・

- 経営トップは、率先して行動し、労働者の安全意識の啓発を図りましょう。
- 事業場ごとに、旗振り役として、安全管理者または安全推進者を配置しましょう。
- 作業開始前のKY(危険・予知)活動、作業時の指差し呼称、ストレッチ体操などを推進しましょう。
- 危険の「見える化」及び安全教育の充実を図りましょう。



※1 事務所外階段を二階へ昇っている最中に、転倒し地面まで転落したもの。

セルフチェックをしましょう！

STOP!転倒災害プロジェクト

転倒災害防止のためのチェック項目

- 経営トップは、転倒災害防止に係る決意と基本方針を書面等で表明し、周知していますか。また、自ら率先して各職場を巡視していますか。
- 各職場における転倒災害の発生状況を把握・分析し、全社的な安全対策を実施していますか。
- 事業場ごとに安全管理者または安全推進者を配置していますか。
- 安全管理者等が活動しやすいよう、職務に必要な権限を与えるとともに、職務の遂行状況を確認していますか。また、能力向上にも配慮していますか。
- 4S（整理、整頓、清掃、清潔）活動、「KY（危険・予知）活動」、「指差し呼称」、「ヒヤリ・ハット事例収集」等の安全活動を実施していますか。
- 通路、階段、出口に物を放置していませんか。
- 通路や床に、水たまりや氷、油、粉類などを放置していませんか。
- 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか。
- 作業靴は、作業現場に合った防滑性を備え、かつ足のサイズに合ったものを選んでいませんか。
- 職場巡視やKY活動等で把握した危険なポイントについて、注意を促す表示をする、危険マップを作成する等により周知していますか。
- ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか。
- 職制、従事業務の内容、経験年数等に応じた転倒を予防するための教育を行っていますか。
- ポケットに手を入れたまま歩くこと等の不安全行動を禁止していますか。